

平成22年度第2回和光市次世代育成支援対策地域協議会会議録

日 時	平成23年2月16日（水）14：00～16：00
場 所	和光市庁舎6階602会議室
出席者	西郷委員長 待鳥副委員長 大久保委員 岡本委員 加山委員 栗原委員 萩原委員 半田委員 松原委員 三浦委員 森田委員
欠席者	加藤委員 神杉委員 上牧委員 松永委員 村山委員
事務局	郡司こども福祉課長 亀井課長補佐 横山副主任 吉澤主事
傍聴者	3名
議題	1 新委員の紹介 2 わこう子どもプランの事業評価について 3 子ども版地域協議会における提案について 4 その他

○ 事務局

本日は、大変お忙しいところご出席をいただきまして、ありがとうございます。ただいまから、平成22年度第2回和光市次世代育成支援対策地域協議会を開会いたします。

○（資料確認）

○（会議公開・会議録要点記録の説明）

○ 事務局

それでは、議題に入りますので、ここからの進行は、和光市次世代育成支援対策地域協議会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員長に議長をお願いしたいと存じます。西郷委員長よろしくお願いたします。

○ 西郷委員長

議事の進行がスムーズにいきますように、皆様のご協力をお願いいたします。議題1の新委員の紹介について、事務局からご説明をお願いいたします。

○ 事務局

「和光市民生委員児童委員協議会」の役員改選に伴い、この協議会の委員も小野委員から加山委員に代わられました。

○ 西郷委員長

代わられて初めての会議ですので、加山委員から一言ご挨拶をいただけたらと思います。

○ 加山委員

（自己紹介）

○ 西郷委員長

ありがとうございました。

では、次の議題2わこう子どもプランの事業評価について、事務局から説明をお願いします。

○ 事務局

議題2わこう子どもプランの事業評価についてご説明させていただきます。子どもプランは、計画年度が平成22年度から26年度の計画で、既に平成22年度から事業が実施されていますので、評価方法を22年度中に決定し、平成23年度の地域協議会で具体的な評価を行っていきたいと考えています。

子どもプランは、前期計画の将来像・基本理念を引継ぎ、事業運営が効果的に行われているか進行管理や評価を行うことにより、次年度以降の事業の見直しや予算編成に活用させていきます。

「子どもプラン」と「評価」については、PDCAサイクルに基づき、計画を着実に推進し、計画の実効性をより高めていきます。子どもプランに掲載した事業を単に実行して終了ではなく、平成26年度を目標値として設定し、事業が確実に実施され、達成状況を確認・評価することによって、見直し・改善を行い、今後、より効果的で質の高い子どもプランが期待されています。

前期計画では、事業担当課による自己評価を全205事業行い、それらを事務局でまとめ、地域協議会で報告を行ってきました。

過去の地域協議会での評価に関するご意見を踏まえ、事業の実施をより効果的に運営していくために、子どもプランの評価方法は、従来の事業担当課による自己評価に加え、受益者による評価、第三者評価として地域協議会による評価を行うことをご提案させていただきます。

平成23年度に実施する地域協議会の評価では、平成22年度の事業評価を行います。受益者評価につきましては、事業に参加した直後にアンケートやヒアリング調査を行ったもののほうが利用者の声をすくいやすく、効果が高いので、既に終了している平成22年度事業の受益者評価は行わず、平成23年度に実施したものから対象とします。

つまり、平成23年度の地域協議会では、受益者評価は行わず、事業担当課による自己評価と、第三者評価として地域協議会による評価を行います。平成24年度の地域協議会で、初めて事業担当課による自己評価に加え、受益者による評価、第三者評価として地域協議会による評価を行います。

事業担当課による自己評価は、子どもプランに掲載されている全155事業を主管課が書面にて自己評価を行います。前期計画と大きく変わることはありませんが、前期計画の評価方法と変更した部分については、前期計画では、事業の達成度を「A：よく取り組めた」、「B：ほぼ取り組めた」、「C：一部取り組めた」、「D：全く取り組めていない」という4つの評価基準を使用していましたが、過去の地域協議会の意見として評価基準を明確にして欲しいとのご意見が多数ありました。

そこで、子どもプランでは、計画策定時に平成26年度を目標値とした評価指標がそれぞれ設定されていますので、その指標の達成率に応じて達成度（A：計画どおり実施

(目標達成率80～100%)、B：おおむね計画どおり実施(目標達成率60～80%未満)、C：計画を下回って実施(目標達成率40～60%未満)、D：計画を大きく下回って実施(目標達成率0～40%未満)を入力し、評価を行います。

ただし、事業内容によっては、評価指標がないものもありますので、その場合には、事業の実施状況等で主管課が判断し、A～Dの達成度を入力します。

達成度でC、D評価を行った進捗の思わしくない事業については、主管課に原因を分析してもらい、具体的な改善策を入力し、事業が確実に実行されるように検証してもらいます。

受益者評価は、事業を実施した際の利用者やそれに参加した関係者等による評価です。事業利用者による満足度や事業実施の効果を把握するためにも、事業を実施した後に、こども福祉課がヒアリングやアンケート調査を実施します。

評価の対象としては、地域協議会で重点事業を中心として評価を行うこともあり、重点事業12事業からあらかじめ4事業程度を事務局で選択し、評価を行う予定です。

地域協議会による評価は、事業担当課による自己評価と受益者評価を踏まえ、計画の進捗状況を確認し、目標に対する事業の貢献度、今後の課題や改善点等について地域協議会にて評価及び提言を行っていただきます。地域協議会における評価の対象事業についても、受益者評価と同様に重点事業12事業を中心とし、その中からあらかじめ4事業程度を事務局で選択し、評価を行う予定です。

事務局案としては、事業担当課による自己評価と受益者評価を事務局がまとめ、その評価を基に、地域協議会として、さらに評価に必要な情報がある場合、会議開催1か月前に事業に係る質疑を書面により、主管課に照会します。評価に必要な情報については、各委員の皆様にご検討いただき、事務局でまとめ、主管課に照会し、その回答と事業担当課による自己評価と受益者評価を基に、地域協議会全員で評価を行っていただきます。

想定する時間として、1事業あたり概ね30分程度で4事業程度の評価を行っていただきます。地域協議会で評価について意見を取りまとめていただき、提言をしていただければと思います。以上の評価方法について、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○ 西郷委員長

内容について、ご質問がございましたら伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○ 岡本委員

達成度の評価基準について、D：計画を大きく下回って実施(目標達成率0～40%未満)とありますが、0%の場合、実施にあたるのでしょうか。

○ 事務局

一つの例として申し上げますと、重点事業で子ども版地域協議会の設置については、平成26年度の会議回数1回、参加委員数10名を目標値として設定されています。市では、たまたま今年度実施しましたので、数値が入りますが、例えば実施していない

場合は、数値だけで言えば0%になり、実施していないということが数字で表される形になります。

○ 岡本委員

0%というのは、実施されていないということを表しているのですね。例えば、E評価として未実施を作成したほうがわかりやすいかと思います。

○ 事務局

少しでも実施したものと、全く実施していないものを差別化して評価を行ったほうがよいということですね。検討させていただきます。

○ 西郷委員長

今の話は、全体としてどう評価するかということとも絡むので、今のご意見はご提案として確認させていただき、やり方については、全体の評価で議論させていただきたいと思います。ありがとうございます。

事業担当課による自己評価についてですが、岡本委員のご意見にも関連しますが、確かに数値目標を設定している事業については、一件も実施していなければ0%となります。ただ、来年度につきましては、利用者評価は行いませんが、達成度として数値上は低いが、利用者評価としては高かったとか、具体的な事業の実施までには至らなかったが、実施には、担当課では実施に向けた準備を行っていたということになると、確かに事業の目標値との関係では、0%が出て、評価としては、E評価となりますが、各主管課は、事業実施に向け、何らかの準備は行っていると思います。そこで、評価の項目として、①目標値との関係の評価と、②利用者による評価、③当事者評価としての評価を行ってはいかがでしょうか。③の当事者による評価の項目に事業内容の記入欄に、当事者として事業の実施に向け準備・調整状況を記入してもらうことで、事業実施に向けた動きを把握することもできます。この3つの総合評価で達成度をA～D評価を行ってはいかがでしょうか。

確かに、本当に実施していなければ、住民からすればE評価を行ったほうがわかりやすいですね。

他にご意見ございましたら、お願いいたします。

○ 待鳥副委員長

例えば、子ども版地域協議会は、子どもプランの中では平成26年度の会議回数年1回、参加委員数10名達成できれば、計画上は100%達成できたという評価になるかと思います。本来、この事業自体がどういう意義があるかということを考えると、1度開催して終わりではなく、今後、どのように変わっていくのかということを考えると、1度開催して、計画上は100%達成というふうにはいかないと思います。他にも同じような事業があるかと思いますが、事業を実施したことによってどのように変わっていくか、あるいは今後継続していかなければいけない事業については、継続していくべきであるということ、この地域協議会の意見として出てくるとよいと思います。

- 西郷委員長
具体的な評価の出し方についてご提案はありますでしょうか。
- 待鳥副委員長
こどもプランには、目標値が既に設定されていて、その目標値を達成できれば100%ではなく、例えば、子ども版地域協議会であれば、子どもの参画がもっと市の中に根付いて、子どもの意見が取り入れられるようになったということが最終的な目標なので、そういう指標を考えていくということが入るといいと思います。
- 森田委員
待鳥委員のおっしゃった内容に、賛成です。ただ、今の段階から全て事業の指標を新たに作成することは時間の掛かることですので、事業担当課による自己評価の実績報告の内容の記載部分で、今おっしゃったような成果と見られるような部分を評価調書に掲載してもらいたいと思います。
西郷委員長がおっしゃったように、評価を達成率だけではなく総合的に評価を行うのであれば、達成度という言葉ではなく、異なった言葉がよいと思います。評価調書で、達成度を達成率に並べてしまうと連動しているように思ってしまうので、総合評価のところで、A～Dの評価を行ったほうがよいかと思います。
- 西郷委員長
評価調書の事業の実施内容に成果も含まれているかと思いますが、記入方法に成果も記入してもらうよう明記してもらう項目があってもよいかと思います。
待鳥副委員長のご意見であるアウトカム評価は、おっしゃったとおりですが、今回の計画の設えがアウトカム評価を前提として作れていません。日本の計画のどの計画もそうですが、大きな課題としてアウトカム評価をきちんとできるようにすることが大きな課題です。これらを課題として受け止めさせていただき、今後も和光市が計画をつくる段階で、アウトカムを明示して評価をしたほうが、本当に自分たちが今と最終の達成ゴールとの関係でどの位置にいるのかがわかりますので、そうなるようにしていきたいと思いますというご提案として捉えさせていただきます。まさに、本当はそのほうがよいのですが。
- 松原委員
評価調書の達成度についてですが、実績値／平成26年度目標値で達成度を入力することになっていますが、単年度ごとに評価を行い事業の効果を把握していったほうがよいかと思います。
- 待鳥副委員長
評価の結果は、市民にはどのように公表されますか。
- 事務局

今考えているのは、平成20年度から作り始めた「関連施策の推進状況」という形で、前回の会議で皆さんにもご報告させていただいたようなものを公表する予定です。

報告書については、前期計画の全事業は、細かくは掲載されていませんが、重点事業や委員からご質問があったものについて、それぞれの経過や評価を掲載しています。この報告書にうまく掲載できるような形で、市HP、図書館、行政資料コーナーで公表する予定です。

○ 西郷委員長

地域協議会が評価を行う事業数についてですが、事務局案は重点事業12事業のうち、4事業程度とのことですが、いかがでしょうか。

○ 岡本委員

事業数とは異なりますが、評価調書の例で、家庭児童相談室について掲載されていますが、家庭児童相談室の満足度が高いようですが、評価にそういった数字を掲載しないのでしょうか。

○ 事務局

満足度の調査については、後期計画を策定する年に、市民2,500名にアンケート調査を行ったものです。アンケートの実施について、計画策定を目的としたもので、5年に1度しか行いません。アンケート調査は、実施費用が高く、次期計画の5年後にアンケート調査を行うかどうかは現在不確定です。毎年の実施は、難しいです。

○ 岡本委員

毎年アンケート調査を行うことは予算的にも難しいかと思いますが、以前行ったアンケート調査の結果があるのであれば、それらを掲載してもよいかと思います。

○ 事務局

例えば、子どもプランには、家庭児童相談室の満足度は、アウトカム評価として、平成20年度の実績値79.3%から平成26年度を目標値とした90%に上げるという目標を掲載しています。平成22年度の満足度を調査することは現実的には難しいです。例えば、相談ケースについては、相談者から直接満足度を調査することは、難しいです。

○ 西郷委員長

確かに、相談業務については、相談にいらっしゃった方に直接満足度を聞くことは難しいですね。

可能であれば、5年に1回、満足度の調査ができ、その結果がよければ、よかったということになります。

地域協議会が評価を行う事業数についてですが、事務局案は重点事業12事業のうち、4事業程度とのことですが、いかがでしょうか。

○ 待鳥副委員長

毎年同じ4事業の評価を行うのでしょうか。また、どういう基準で4事業ピックアップするのでしょうか。

○ 事務局

特に事務局でこの4事業の評価を行っていただきたいということではありませんが、子どもプランには、重点課題が4項目ありますので、それぞれ1項目選んでいただいてもいいですし、地域協議会委員のご意見として、この事業が重要だと思うので、この事業評価を行いたいというのであれば、それもよいかと思います。

また、毎年異なった事業を選ぶのであれば、利点もあるかと思いますが、毎年同じ事業を評価するのであれば継続的にみていくことができると思います。委員の皆様から何かご意見ございましたら、お伺いしたいです。

○ 森田委員

時間的な制約もあるかと思いますが、4事業程度かと思います。

継続的に評価を行ったほうがよいものなのか、それとも単年度だけで評価を行ったほうがよいものなのか、事業内容にもよるかと思いますが、時間を工夫しながら選ぶプロセスをどう共有していくかというのをここでは考えてはいかがでしょうか。今、事業内容を全て把握していないので、決定するのは難しいと思います。プロセスをどうしていくのかということをお話し合えればと思います。

○ 半田委員

事業内容を把握していないので、意見を求められてもきちんとした意見を言えません。評価についてですが、数値だけをみて評価を行うのは難しいと思います。希望としては、事業を実施したことにより、これだけ成果が得られるということが含まれた目標値であって欲しいです。事業を実施するにあたって、成果が得られたということが数値とは別に明記されているほうが、評価ができると思います。

○ 西郷委員長

この地域協議会は2時間という時間的な制約もあります。

提案ですが、重点事業が12事業ありますので、それぞれの各委員が専門的な知識がおありですので、例えば、お一人2事業程度を受け持ち、評価を事前に記入していただき、その評価を地域協議会委員が全員で読み、とりわけ地域協議会で優先順位を協議し、場合によっては市に新しい数値をご提示いただき、地域協議会全体で評価を行うというのもよいかと思います。

例えば毎年、4事業評価を行っているのと、毎年理屈付けをするのに疲れてしまいます。そこで、12事業の評価を効率的にやらなければいけないので、それぞれ各委員が評価に係るたたき台を1人2事業程度を担当していただき、数行ずつ評価についてコメントを書いていただき、それをもとに、地域協議会全体で、議論していくという形もあるかと思いますがいかがでしょうか。

155事業で4事業のみの評価ですと、説得力がない気がします。12事業以外の事業につきましては、事業担当課による自己評価の一覧表が出た段階で、とりわけご意見がありましたら、地域協議会でご発言いただき、評価を行うというスタンスではいかがでしょうか。実務的なものについては、事務局と相談したいと思います。

委員の皆様については、協議会の開催前に作業をお願いしたいと思います。

○ 待鳥副委員長

評価結果については、主管課にフィードバックされるかと思いますが、1年間のスケジュールについては、教えてください。

○ 事務局

予定しているスケジュールについて、ご案内させていただきます。

4～5月：主管課が推進状況調査評価調書作成（155事業）を作成し、自己評価を行う

6月上旬：事務局が状況に応じて、各課へヒアリング調査実施

6月下旬：地域協議会委員が、事業担当課による自己評価及び受益者評価を踏まえ、役割分担された事業について各自評価を行う

7月：地域協議会委員による評価を事務局が取りまとめを行う

7月：次世代育成支援対策地域行動計画推進庁内調整会議実施（各課による調整）

7～8月：次世代育成支援対策地域協議会実施

8月～：公表

○ 西郷委員長

PDC Aサイクルで言うと、P：わこう子どもプランができ、D：事業が実行され、C：平成23年度の夏前に事業の確認・評価を行い、A：来年度の事業をどのように行っていくかという見直し・改善を各課が8月—10月頃に行うと思いますので、その作業に地域協議会の提言を入れていただくという流れかと思います。

実際の計画というところでは、翌年度の予算が取れないといけませんので、3月議会の結果にもよります。

では、評価についてよろしければ、次の議題3子ども版地域協議会における提案に移ります。

子ども版地域協議会は、わこう子どもプランに新規・重点事業として計画されています。今年度、長期に渡り、地域住民・社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下「SCJ」という。）・市の3者で運営をし、まとめができつつあります。今日は、その報告をしていただき、子どもたちの意見を大人の地域協議会がどう受け止め、市に反映させていくか相談していきたいと思います。まずは、報告をお願いします。

○ 事務局

前回の地域協議会でも第1回の子ども版地域協議会についてご報告させていただきましたが、この8月に開催しました子ども版地域協議会について、ご報告させていただきます。

ます。

報告は、和光市と協働で実施し、子ども版地域協議会を主に担って運営していただき S C J をお願いしたいと思います。

○ S C J

今日の報告につきましては、参加した 21 名の子どもたちと地域の皆さんの思いを伝えるという形でお話をさせていただきます。

報告の目的としては、子ども版地域協議会での子どもたちの意見をこの地域協議会で共有し、子どもたちの意見を基にこどもプランの実施・評価に反映していただきたいと思っています。

S C J は、子どもの権利条約を理念として、世界 120 カ国で子どもの権利の実現に向けて活動を行っている N G O です。概要について、ご紹介させていただきます。

(S C J 紹介 DVD 視聴)

国内での活動を、ご紹介させていただきます。子どもの参加の促進ということで、「**Speaking Out**」というプロジェクトに 2003 年から取り組んでおります。子どもの権利の視点からあらゆる政策に子どもたちの意見を反映させていくこと目的としております。2009 年までには約 380 件、子どもたちと共に参加型の学習プログラムを実践しております。約 19,000 人の子どもたちが参加してくれています。去年は、子ども版地域協議会の他に、日本の子どもの貧困解決に向けたキャンペーンですとか、大学と協働による子ども支援者の育成等を行っております。子ども参加のノウハウを子ども版地域協議会に生かしたいと考えてくださった和光市と協働し、取り組んでまいりました。和光市、地域の皆さん、S C J が協働ですというような仕組みで実施してきました。協働ということで、ビジョンを共有し、関係者が協議会で何を目指すのか、また、子ども参加についてきちんと学びました。また、地域の皆さんが、子どもの意見をしっかり聴くためのスキル・態度・知識を学ぶ、ファシリテーション研修も行いました。

子ども版地域協議会は、子どもたちが子どもプランについて意見表明し、この意見をもとに事業内容が改善されること、改善されない場合は、その理由が適切に説明されること、また、和光市で子どもの社会参加を支持する機運を形成していくことを目的として実施してまいりました。

子ども版地域協議会での子どもたちの意見は、和光市の子どもに関する関連部局で検討が行われ、この地域協議会で施策への反映のあり方を委員の皆様にご検討・提案していただき、次年度以降に実施していただければという風に考えています。今日は、この地域協議会が子どもたちの意見を受け止め、検討し、市に提言していただくという重要な場となっています。

概要については、子ども版地域協議会開催当日の DVD（県立和光高等学校放送部撮影）、「みんなの意見×よりよい和光市（平成 22 年度「わこう子どもプラン子ども版地域協議会報告書（案）」）」をご覧ください。

(子ども版地域協議会開催当日のDVD視聴(県立和光高等学校放送部撮影))

○ 事務局

ご存知のとおり、現在市の財政はかなり厳しい状況になっています。

子どもたちの提案の中には、時間と費用がかかるものもありましたが、費用をかけずにできそうなものもありました。図書館では、子どもたちの提案を伝えた後、職員同士でその提案を共有し、ポスターを貼るなど、早速できることから対応を始めました。

公園の管理を主管しているところでは、運営については、今までなかなか子どもの意見を聞く機会がありませんでしたが、平成23年度の夏には、子どもたちの意見を聞くワークショップを開催することを検討しています。

子どもたちの提案を、各課で構成される庁内調整会議で報告を行いました。庁内調整会議の意見としては、常日頃、市政への意見・要望等は、大人や子どもを区別することなく受け、対応していますが、実際は、児童センター(館)などを除き「子どもの意見は届きにくい。」ものとなっています。DVDの映像や、事務局からの報告で、子どもたちは、自分自身を取り巻く環境の中から課題を洗い出し、関係者へのインタビュー調査などを経て、子どもたち自身が熱心に協議した様子が伺えたとの意見がありました。

また、子ども版地域協議会終了後に行った参加者アンケートでは、「市を知ることができて良かった。」「市の役に立ちたい。」「市をもっと良くしていきたい。」という感想があったというのを聞き、今回のこの取り組みは、「子どもが社会の構成員としての意識を持ち、責任ある存在となるよう、また、次代を担う意識や郷土愛を育てる」ために大変意義のあるものであったと考えています。

私たち職員も、子どもにかかわることは、「当事者である子どもの意見を尊重することの大切さ」「子どもの発想の豊かさ」を再認識する良い機会であったと考えています。

さらに、アンケートによると、子どもたちの多くは、伝えた意見により「和光市は変わる」と信じています。

私たち市職員も、市政を運営するに当たっては、子どもに関することは、その当事者である子どもの意見を尊重し、また、その期待を裏切ることなく子どもの利益を最大限に尊重しながら、実施しなければならないと強く感じたという意見がありました。

この事業は、地域の皆さんのご協力なしでは、実施できるものではありませんでした。ご協力をいただいた「チャイルド・ファシリテーターの皆さん」「各子育て支援団体の皆さん」すべての方に心から感謝したいという意見がありました。

○ SCJ

子ども版地域協議会は、地域と方々と子どもたちがパートナーとなり、和光市を変えていく第一歩になったと考えております。今日、この地域協議会が、この取り組みをさらに前進させていくための場であると考えております。ぜひ子どもたちの意見を、子どもプランの実施・評価にどのように反映させていくのか、委員の皆様から積極的なご意見をお願いしたいと思います。

○ 西郷委員長

地域協議会の委員の皆様の中に、子ども版地域協議会に参加して下さった方もいらっしゃると思いますので、補足がありましたらお願いします。

○ 大久保委員

29日の発表を見学させていただきました。子どもたちの意見は、とても発想が豊かで、現実的には実施に向けてなかなか難しい部分もあったかと思います。また、お金があればできることだけではなく、工夫してできることや、今まで見落としてきている部分を子どもたちがみつけてきてくれたこともありました。

子どもたちの意見を、今後どのようにしていかなければいけないのかということが、難しいと思います。お金をかければできると思いますが、経費をなるべくかけず、子どもたちが希望するものなどに変えていくということが大人の責任であると思います。

○ 西郷委員長

ありがとうございました。

では、子どもたちの意見を地域協議会でどう受け止めていくのかという議論をしていかなければいけません。

子ども版地域協議会は、大人の地域協議会と関連していますので、この協議会で子どもたちの意見をどう捉え、どう市の子ども計画の進捗状況評価に生かしていくかということが課題です。生かし方については、PDCAサイクルで一般的に考えますと、今年の夏までに行う評価に、どう子どもたちの意見を取り組んでいくのかということになりますが、何かご提案がありましたら、お願い致します。

○ 待鳥副委員長

子どもたちの意見について、SCJ、事務局でやり取りを行い、各課から回答を取りまとめていただき、大変ご苦労されたかと思います。

実際に、子どもたちから意見が出てきて、予算が付いていなければ、なかなか全部が実現できるわけではありませんが、子どもたちに対し、できるものは実施をしていく、できないものに関しては、なぜ今できないのかきちんと説明をしていくということがなされなければいけないと思っています。

今回は、綿密なプログラムで準備に非常に時間がかかって行われていました。この取り組みについては、今年も実施していただきたいと思います。子どもたちが参加して、意見を言って終わりというわけではなく、庁内でも今後各課でも子どもたちの意見を取り入れていくという方針のご意見も出たようですので、今後もなんらかの形で子どもたちの意見をきちんと聴くという取り組みを続けていく必要があると思います。

○ 西郷委員長

今後の取り組み方について、子どもたちにきちんとフィードバックをしていく必要があるというご意見でした。ニュースレターなどでフィードバックを行いますか。

○ SCJ

今後のフィードバックにつきましては、報告書を公開します。また、子どもたちには、わかりやすいようにニュースレターを作成し、報告します。子ども版地域協議会に参加していない子どもたちにも概要がわかるように作成し、近日中に配布予定です。

○ 事務局

報告書に、地域協議会の評価として、委員の皆様のご意見を掲載させていただき、事業を完了としたいと思います。

○ 西郷委員長

地域協議会として、子どもたちの意見をどう受け止めたか、この協議会で検討していきたいと思いますがいかがでしょうか。

○ 森田委員

今回、ここまで丁寧な取組みができたのもSCJの熱意と、そのサポートを受けたチャイルド・ファシリテーターという地域の方々が、和光市の子どもたちの意見を形成するサポートができたことが第一歩だと思います。地域の方、NGO、NPO、市が連携してこれたからこそ、ここまで丁寧に事業を実施することができたと思っています。

子どもたちにフィードバックできる内容については、実際には、すぐに実現できるという内容ではありませんが、ニュースレター等を発行したり、県立和光高等学校放送部に撮影をサポートしてもらったり、目に見える成果を感じます。

でも、この協議会が開催されたことを知っている子どもはまだ少ないと思うので、こういう取組みが子どもたちにとって市と自分たちの意見で和光市を変えることができる機会があるんだということを、和光市の全ての子どもたちに知ってもらえるプロセスが大切だと思います。今回実施した丁寧な流れを、今後どう継続できるか、地域で育成されたチャイルド・ファシリテーターがどのようにかかわっていくことができるのかという今後の期待も含め、事業を継続していただきたいと思っています。初めは、参加者がなかなか集まりませんでした。市を初め、地域やSCJに敬意を称したいと思います。

○ 三浦委員

29日に参加させていただきましたが、私にとって大切な場でした。実際に、子どもたちや協力者の姿を見て、もし、この取組みが次年度も継続するのであれば、出席できる者にとって、非常に参考になります。

○ 加山委員

初めて地域協議会に参加し、いろいろ勉強させていただきました。

○ 萩原委員

大人と一緒に住みやすい市を作るとか、市に愛着を持つということにつながっていくと思いますので、今後も和光市がよくなっていく気持ちを一緒に持ってやっていこうと

いうことが子どもたちに返していければと思います。

子どもたちの具体的な意見についての回答は、各課が行っていますので、全体としては、今後もよいパートナーとして一緒によりよい和光市を作っていこうということを伝えていければと思います。

○ 西郷委員長

個別の施策についての提案はいろいろとありますが、全体を通して、子どもたちは、子どもの目線で意見を言ってくれています。今後もよいパートナーとして一緒によりよい和光市を作っていくためにも、子どもたちの意見を聴きながら事業運営をしていかなければなりません。子どもたちの主体的な提案から、子どもたち自身もそれらを求めています。子どもの意見を各現場で聴くという姿勢を大人がしっかりと受け止め、よりよい和光市を作っていくためにも、計画を充実していきましょう。

具体的な提案については、今年の夏に向けて子どもプランの155事業の評価を行いますので、その中で委員の皆様からのご意見もいただきますし、重点事業12事業を地域協議会の全委員で評価を行います。子どもたちの意見や参加への期待・希望を踏まえて評価を行い、また、評価を行う上で参考とさせてもらうという意見を報告書に掲載し、8月の評価に反映させていきます。個別の意見も大切ですが、子どもが参加する社会づくり・まちづくりが大事です。こういった視点で、さまざまな施策をつくる場面で子どもの意見を受け止める方針で施策も作りますし、私たちも地域協議会も施策の評価も行いましょう。

○ SCJ

子どもたちが一番気になっていることは、自分たちが発信したものが、どう受け止められて、今後どう反映されていくのか、また、反映されない場合は、なぜなのかということだと思います。地域協議会の委員の皆様が、子どもたちの意見に対し、きちんと向き合っていただけたということをしちゃんと反映し、この取組みが次につながってほしいと思います。

○ 西郷委員長

今年度中に報告書は公開されますが、子どもたちの意見については、今年の8月の地域協議会の評価の資料にも掲載してもらい、子どもたちの意見との関係でどう評価がされたかということがみえますので、事務局で工夫をお願いしたいと思います。

○ 待鳥副委員長

先ほど庁内調整会議のご意見で、今後も子どもにかかわることは意見を聴いていくという方向性のご発言もありましたが、今後そういった取組みが広がればよいと思います。ただ、言い方が悪いですがアリバイ的に子どもの意見を聴きましたというようなことではなく、子どもたちが今回のように自分たちの意見を言える環境作りがとても大事なことだと思っています。今回、SCJのご協力でチャイルド・ファシリテーターとい

う人材が地域で育ち始めていますので、今後もそういったものをご活用していただき、子どもたちの意見をきちんと聴いてもらいたいと思います。

○ 西郷委員長

地域協議会として、方向性が合意できるのであれば、チャイルド・ファシリテーターも協力をしながら、子どもたちの意見について、今後も引き続き聴いていただきたいというご意見を報告書に掲載するのもよいかと思います。8月の評価の際にも入れてもよいのではと思います。

それでは、ご意見がなければ、議題4その他について、事務局から説明をお願いします。

○ 事務局

先日、和光市で行われた「子ども議会」と「今後のスケジュール」について2点お知らせいたします。

和光市子ども議会は、和光市議会が主催し、1月29日（土）に実施されました。

これは、市制施行40周年を記念し、開かれた議会を目指す和光市議会として、次世代を担う子どもたちが模擬議会を体験することにより、市政と議会の役割について理解し関心を深めることを目的として行ったものです。

市内各小中学校6年生、中学校2年生、全11校から男女2名ずつ参加し、22名の子ども議員が、「1人1問5分以内で質問答弁を行う」という制約がありましたが、それぞれの日頃の思いを質問していました。

質問の内容は、通学路の安全や中学生の海外派遣について、また、単に要望だけでなく、市に対し「ポイ捨てなどのモラル低下についてどう考えているか。」など市の方向性を問うものがありました。

子ども版地域協議会でもテーマになった「公園や遊び」についての質問が一番多く、22人中6人が質問していました。

最後の和光市議会副議長の挨拶の中で、「こども議会での質問は身近なものが多く、これを受けて3月議会で一般質問を展開されるのでは」とありましたので、今後、参加された子どもたちの期待も大きいのではと思います。

来年度の「子ども版地域協議会」については、どのように実施するかは未定ですが、この「子ども議会」で出されたご意見も参考にしたいと思います。

次に今後のスケジュールについて、お知らせいたします。

この後（3月上旬頃）、本日の議事録作成を作成し、市HP・広報わこう・市役所1階行政資料コーナー・図書館で閲覧できるようにします。

同じ頃、「子ども版地域協議会」に関し、市への提言をとりまとめます。この提言は、「子ども版地域協議会」報告書に掲載する予定となっております。

また、その後は、本日方向性が決まった平成22年度の評価について、まず4月～5月頃にかけて、事業担当課が自己評価を行います。それを取りまとめ、委員の皆さんにお送りします。ご覧いただき、それぞれ疑問に思ったことなどの質問や評価を文書にてご提出いただきます。必要な資料のやり取りを何回か行い、8月頃に平成23年度の地

域協議会を開催し、委員の皆様に評価をお願いしたいと思います。

○ 西郷委員長

他にないようですので、これで議長の席をおりたいと思います。

本日はお忙しい中、長時間に渡りまして色々ご意見等を頂きまして誠にありがとうございます。本日はこれにて閉会させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。